

セブンスデー・アドベンチスト教団

アドベンチスト

September



はらしゆく



『預言の声』ラジオ放送が始まって 50年

元・東京中央教会牧師 鴨田 増一

私達が東京へ引っ越して来て、暫くたったある日のこと、当時東京中央教会の副牧師であった斉藤孝先生が、『預言の声』ラジオ放送の創作者であるポール・H・エルドリッジ牧師のメッセンジャーとして、わが家を訪ねてこられました。「あなたは大学時代に演劇活動をしておられたと聞いていますが、どうですか、今度新しく企画している月一度のドラマに、今までの経験を生かして、声優(?)として私達の放送を助けてくださいませんか」

私はふたつ返事でこのお申し出を受け入れ、これが私のそれから18年間にわたる『預言の声』の働きのスタートとなりました。それは『預言の声』放送が始まってから三年目の1955年(昭和30年)のことでした。

さて、以来50年の存続を記念しての9月1日の大会では、ビデオによるエルドリッジ先生のご挨拶があり、「今までの『預言の声』の働きをかえりみれば、うたがうことなく神様のお導きであったと信じます」と力強く言われ、「この放送が福音伝達の手びきとなるように 心から祈ります」と結ばれました。たしかに開始以来、経済的にも、またスタッフの面でも、神様のお導きなくしてはこの進展は考えられません。

続いて山形俊夫先生(第二代・第四代ラジオ牧師)は、大会当日体調をくずされて電話によるメッセージとなりましたが、「この放送の目的はみんなに主のご再臨の準備をさせるものでありたい」と言われました。まことに『預言の声』という名前にふさわしく、キリストの福音と同時にまもなく来たり給うキリスト再臨のメッセージが力強く語られなければ、もはや

SDAの放送ではあり得ないという確信をもつに至りました。

また最後に、グアム島にある、SDAの短波放送局AWRのブルック・パワーズ先生が「50周年を迎えたということは、それだけ主の再臨が近くなったのだということを忘れないように」と言われて、身のひきしまる思いがしました。ただ感謝し、祝うだけでなく、主の再臨近しという思いをひとときも忘れることなく、まず心の備えをしていること。これは『預言の声』のスタッフに限らず、私達すべての者の生活を通して憶えていなければならないことです。

今回の大会では、昔なつかしい歴代のラジオ牧師の先生がたやスタッフ・同僚の皆さんとの久々の再会をよろこびあいました。しかし、それにもまして深い感動をおぼえたのは、これからの放送伝道を支える山地正先生を先頭に、若いスタッフが新しい放送技術を駆使して、会場で大活躍をされていたことです。「神のなさることはその時にかなって美しい」(伝道の書3章11節)... 彼らに心からなるエールを送り続けたいと思います。これからの『預言の声』の働きを私達みんなまで支えていこうではありませんか。

この大会が東京中央教会で開催されたことにより、かつての信仰の友とも久し振りにお交わりができたことは、私達にとってまさに二重のよろこびでした。深く感謝しております。

マラナタ!(われらの主よ、来たりませ)



「Knocking the Door ~ 質問が答え? ~ 」

渡辺 日出夫

2001年6月、トロント(カナダ)に渡った。この旅立ち、自分の信仰を確認しに行く旅であった。と、いうのもその当時の自分は、何事においても否定的であった。神様の存在を信じているにも拘わらず、十字架の救いと悔い改めに対して否定・反抗していたからである。

トロントでは教会に行かなかった。そんな時に会ったのが、ISM(International Student Ministry)という、留学生向けに英会話と聖書を教えている団体であった。この団体に出会い、私は変わった。当時私は、多くの人に質問を投げかけていた。「どうして教会に行かないといけないのか?」しかし、私を満足させる解答に出会うことはなかったのである。そして数か月が過ぎ、クリスマス。私はISM主催のクリスマスキャンプに参加し、多くの学生と遊んだり、聖書の学びをしたりすることになった。

そんな中、神様は答えをくれた。それはクリスマス礼拝の時であった。讃美をする喜びをすごく感じ、礼拝中も涙が止まらなかったのである。私は気づいた。自分の質問には答えがないと...。それは「質問」が「答え」だったから。では、本当の質問とは? 「皆と讃美・礼拝したい。一人じゃなく、分かち合いたい。じゃ、どこへ行けばいいの? どうしたらいいの?」それに対しての答えが「教会行こう!!」ということ。教会

に行くことは義務ではない。教会での讃美と礼拝、分かち合いは喜びの証なのだ...。

キャンプ後、私はこの証をISM宣教師達に書き送った。すると一人の宣教師から返事が来た。「日出夫、覚えてるよ。この間の夏、聖書研究を終えた後、君は私のところに来て言ったよね。『まさに僕が求めていたものだよ~』って。私は、そのとき、『神様との関係』と『単なる宗教儀式的のパフォーマンスはいけない』ということを教えたね。“真のクリスチャニティ”は、神様との関係にある、決して宗教ではないということ。私は、ちょうどその日、そう8月28日に、君がそのことを理解したと確信しています」...。私は驚いた。たった小さな一言を覚えて祈ってくれていた人がいることに...

このようにして、神様は小さな音だったかも知れないけど、私の扉を叩いていたのだ。そしてその扉をあけたその日、私は教会に戻った。

「見よ、わたしは戸の外に立って、たたいている。だれでも私の声を聞いて戸をあけるなら、わたしはその中にはいって彼と食を共にし、彼もまたわたしと食を共にするであろう」

(ヨハネの黙示録3章20節)



第4回家庭セミナーの案内

「見つめる必要のある誰?...」

心の奥を硬く閉ざしたまま思

春期入ってくる子どもが増えます。一方で わが子を受け入れられず苦しむ親達が増えます。今日 子育ての希望はどこから見えてくるのでしょうか? わが子の思春期前に見つめる必要があるのは もしかしたら親である私達自身の心の中の問題かもしれません。「わが子と和らぐ」 道をご一緒に探ってませんか?

*テーマ: 「わが子と和らぐ道」 -思春期を親子で生きぬくために-

*お 話: 安積力也先生 (あかみちや)

(恵良学園中学校高等学校 校長)

*日 時: 10月5日 (土) 午後3時30分より約1時間

*場 所: 1F集会室

俳句
はまなすの香り漂う北の果
原爆忌語りべなりし友は亡き
躑つとみげば蜥蜴とかげの出づる鉢の下
竊いらいだ立ちの団扇うちわの風を貰ひけり
佳き人と日傘に寄りて話しけり
コスモスの群れさながらに園見ハス(保夫)

(盾三)
(茂子)

新時代到来の予感 - 全日本青年大会 (Shaking Japan) 8/1(木)~8/5(月)

全日本青年大会とPFC全日本キャンポリーが、富山県の立山において行われました。青年大会には116名、キャンポリーには385名の参加者がありました。

私は青年大会の方に参加しました。“目玉”は何と言ってもアウトリーチ・プログラム。12の様々なチームに分かれて伝道・奉仕活動を行いました。この体験は、青年たちにとっても新鮮だったようです。最後の献身会では、各チームのリーダーである牧師が、一人一人の頭に手を置いて祈りました。その時、多くの青年たちの目に涙がありました。そして各自が「地の塩、世の光」として全国各地に戻っていったのです。

私達に信仰が与えられたのは自己満足のためでなく、隣人の祝福となるためです。その生き方が、神様の栄光を現すこととなります。それが私達の人生の目的でもあります。意識が外に向けられる時、自分自身の無力さ、小ささを味わいます。だからこそ、神に頼ることができる。その時に注がれる聖霊の豊かさが今回の青年大



会に現されたような気がします。「神は、ご自分の民が、祈り以外に望みはない、というところまで追い込まれるのを願っておられる。ここにこそ教会の、世に立ち向かう力がある。」アンドリュー・ボナーの言葉です。

Shaking Japanは終わったのではなく、今まさに始まったのです。10月にはここ原宿で Shaking Tokyo2002が青年たちの手によって企画されています。さらに多くの若者が地の塩、世の光として、力強く主を証ししていくキリスト者として成長していけるようにお祈りください。

(花田憲彦)

原宿彩彩

ニュー&アメイジング・
ディスカヴァリー

- You can have It!

～さあ、秋の特別講演会です～

すでにご案内のように、お話は、SDAアジア・北大平洋支部長リー・ザイリオン博士。「おどろくべき発見-あなたはひとりではない」という総題のもと、次の日程と表題により毎夜7時から当教会礼拝堂で行われます。7(土)なぜ人は苦しむのか / 8(日)あなたも死を征服することができる / 11(水)9月11日とそれ以降 - 私たちは何処へ? / 12(木)今起ころうとしている最大の出来事とは / 13(金)あなたはいつまでためらっているのか / 14(土) [礼拝説教] 宇宙の支配者 // [夜] 共に歌おう勝利の歌。映像を用いたプレゼンテーションです。お誘い合わせの上、おでかけ下さい。

麗音、響き渡る - チャペルコンサート(8/31夜)

ネパールの口唇口蓋裂の医療資金の一助にと、アドラ後援・当教会主催のもとに、森武靖子

さん(オルガン)、藤井緑さん(ピアノ)、古田真理さん(ソプラノ)による演奏会が開かれ、礼拝堂を埋めた聴衆は、最晩夏の宵、次々に奏でられるうろわしい楽の音に魅了されました。どなたにとってもきっと素敵な“夏の思い出”となったことでしょう。任意献金は総額183,780円。関係の方々のご努力に感謝いたします。次回は今年12月21日(土)夜開催、演奏者は森武さん、藤井さんと石井淳子さん(N響ヴァイオリニスト)の予定です。

芸術の秋です。原宿で、気鋭の作家の力作を「ごらんになりませんか?」 「中野西 章司展」へぜひどうぞ。9月8日(日)~23日(月) 午前11時~午後8時、会場は当教会B1Fの英語学校フロアです(土曜は休み)。右は展示作品の一つ。本紙がカラー印刷でないのが、誠に残念です!



バイブル豆事典

「聖書正典の成立」

ユダヤ教の聖書は、約千年の歴史の中で、伝承が成文資料として編集され、やがて文書として成立し、収集されて「正典」とされたのは、紀元1世紀末のことです。

聖書は初代教会にとって権威のある「神の言葉」でした。イエスはこの神の言葉の中に、自らの使命を自覚し、それに従って行動されました。初代教会は、イエスが救い主(メシア)であることの典拠を聖書の中に求めました。やがて教会は、50年代から2世紀中頃までにかけて書かれた諸文書を収集して、正典としたのは4世紀以降のことです。

イエスの言葉は、使徒や弟子たちによって口伝えて伝承されました。弟子たちはイエスの死後、聖書(旧約)を通してイエス理解を深め、その記憶や伝承によって、イエスの生前の記録を作成しました。2世紀中頃までに、パウロの手紙をはじめ、4つの福音書やほとんどの文書が書かれ、宣教活動や教会内の諸問題の解決に「権威あるもの」として用いられました。新約文書は、ある歴史的状況の中で書き記された、極めて多様性に富んだ文書です。イエスはキリストであるという宣教の言葉であり、イエスについての証言です。

正典への選別は、使徒的著作性、教会の受容、教理との一致という基準でなされ、カルタゴ会議(397年)で最終的に承認されました。正典とは、キリスト教の教義の基準であり、信仰と生活の規範に対する特別の権威を持つ経典です。教会は聖書の正典を制定したことによって、存在の規準と権威を確立しました。
(名誉牧師・杉繁夫)

9月のスケジュール

- 9/ 1(日) バザー準備 10:00~ 15:00
 / 7(土) [説] ザイリオン・リー牧師&子供のお話
 役員会
 小羊クラブ 14:00~
 / 7(土)~8(日)、11(水)~14(土)
 特別講演会「おどろくべき発見」
 ザイリオン・リー牧師 19:00~ 礼拝堂
 / 14(土) [説] ザイリオン・リー牧師&野外子供礼拝
 バプテスマデー
 敬老会
 週報&アドベンチストはらじゅく発送
 / 21(土) [説] 板東洋三郎牧師&子供のお話 洗足・聖餐式
 讚美と証の会
 小羊クラブ 14:00~
 理事会
 / 22(日) バザー準備 10:00~ 15:00
 / 28(土) [説] 東海林正樹牧師&子供のお話
 / 28(土)~29(日) PFC一泊キャンプ(野田清水公園)

教会のホームページを開設しています。

<http://www.sda.gr.jp>

エデン ED園だより

夏の風物詩である高校野球全国大会が終わった。蝉の声が遠ざかり、コオロギの鳴き声が耳に優しく響き、ようやく秋の到来が感じられる今日この頃。児童・学生達は、新しい学期がスタート。幼稚園に通う我が息子が二学期が始まったが、夏休み明け初日に帰宅して発した言葉は、「疲れた」。子供も疲れる時代になってしまったのだろうか。秋は、何をするのに絶好の季節。虫の声をBGMにして、この秋は聖書をじっくりと読んでみたい。(Y.M.)

発行：東京中央教会コミュニケーション部 * 発行人：板東洋三郎 * 編集人：前中靖司
 [住所] 〒150-0001 渋谷区神宮前1-11-1 03-3402-1517
 * スタッフ：久木田明夫・佐藤敏子・寺内雅子・芳賀洋・平山茂子・森武靖子・山口保夫